

50周年記念大会に財務委員長として関わって

北田和美（大阪女子短期大学）

財務委員会としては、予算額 300 万円の収入確保を目指し、50 周年記念大会の開催準備に入った。しかし、不景気の状態はご承知の通りである。この目標に届くにはどうしたらよいのか。理事会でこの役割を担当するというを伺った時、「こんな役割は私にはとても出来ない」と、後藤会長に申し上げたところ、「委員長の仕事はお金を集めるのではなく、みなさんに集めていただけるようにどう働くかにある」とご教示を受けた。

そこで、理事会では、目標額に達するために皆様に具体的な目標額を上げ、ご協力を仰ぐことにした。最終的には、金額としては少し足りなかったが、物品援助を加えるとほぼ目標額を達成できた。なんとすばらしいことか。これは、ひとえに理事を中心とした会員の皆様のご協力の賜物である。そして今、なんとか役割が果たせて、ほっとしている。多くの方のご協力に、心から感謝し、この場をお借りしてお礼を申し上げたい。本当にありがとうございました。

今回、会場校である関大はじめ多くの学園、企業にご協賛をいただいたが、始めてご協賛いただいた企業がある。それは、江崎グリコ株式会社である。紙面の余裕が少しあるので、広告協賛いただいた裏話を 1 つご紹介させていただきたい。

記念大会のテーマは、「なにわのスポーツをひもとく」であったので、大阪のスポーツを支えてきてくれた、所縁がある企業に何とか協力願えればと考えていた。その候補に上がったのが、このグリコさんだった。今回基調講演をしていただいた来田享子氏と、大阪の女性スポーツ黎明期の高等女学校の状況を共同研究した折に、人見絹江さんに続く選手を国際大会に送るための資金集めにグリコさんが多大な協力をしてくださった知見から、お願いしたいと思っていた。幸運なことに本学の学長が懇意であったので、紹介してくださり、直接コンタクトを取ることができた。

グリコさんをたずねてみると、大正期にスポーツが盛んになる時期にグリコの創業者江崎利一さんが一大決心をして、大阪で事業を展開するため九州から出てこられたこと。グリコはお菓子の会社と思っていたが、キャッチフレーズは「おいさと健康」であり、創業当初から滋養のためにグリコを子ども達に食べさせたいと製品化されたこと。それは、息子さんが病気にかかり、医者に見離されたときに、研究していた牡蠣のエキスを飲ませたところ、一命を取り留めたことによること。また、グリコのマーク、ゴールインマークというようだが、このマークは大阪で極東オリンピックが開かれたときにカタロン選手がゴールした印象的な場面が大きな影響を与えていたことなどがわかってきた。さらに、今では、大阪のシンボルマークとして有名な道頓堀のグリコのネオンサインや、日本でのスポーツの歩みと江崎グリコ株式会社の歩みが、同時期に関わりながら発展してきており、「大阪・スポーツ文化・グリコ」の関係は切っても切れない関係であることがわかってきた。

こうなったら、記念大会の折のイベントとして企画が進んでいる朝原選手のランニングクリニ

ックに参加してくれる子ども達にグリコのお菓子をお土産に持って帰ってほしい。どうしてもグリコさんに協賛を得たいという気持ちはさらに強くなった。こちらの思いはこのように強まるものの、そううまく話はとんとんと進まなかった。

その後、当初お目にかかった担当者の転勤や、配置転換などがあり、ご協賛いただく話は、一時暗礁に乗り上げてしまったのである。広告協賛の締め切りは近づく、もうあきらめざるを得ないかと思いつつも、何とかしたいという思いは強く、これで最後とアプローチしたところ、扉は思わぬところから一気に開いたのである。

江崎グリコ株式会社は、パワープロダクションというスポーツフーズも手がけている。本学の学長にもう一度助けていただき、物品提供であれば協賛するといってください、何とか社内の会議にかけてくださったところ、記念大会でデモンストレーションしていただくことになっていたトランポリンの上山選手と廣田選手は、このパワープロダクションのサポート選手であることがわかったのである。

世界はスモールワールドである。トランポリンのデモンストレーションの最後に、グリコのサプリメントのコメントを両選手にしてもらうこと、そして、会場にパンフレットと商品の一部を展示してもらい、協賛していただけることになったのだ。もちろん、朝原選手のランニングクリニック後の子ども達にグリコのお土産もご快諾いただいた。しかし、それが決まったのは、大会号最終原稿校正時点のぎりぎり間際であった。不思議な縁とつながりに助けていただき、記念の学会大会に花を添えていただいた。ご参加いただいた皆さまは、受付横に並んでいたグリコのお菓子、なつかしく手にとっていただけましたか？！